

2020年8月23日発行

大町山岳博物館友の会 第 184 号

# ゆきつばき通信



## 催し物のご案内

企画展「博物学と登山 一大正登山ブームと信州理科教育のさきがけ」関連催し（講演会）  
市立大町山岳博物館主催 友の会協力

## さんぱくゼミナール「信州の教育者・地質学者 保科百助

—明治期を駆け抜けた唯一無二の奇才 五無齋にせまる—

信州の教育者・地質学者の保科百助（ひやくすけ）  
（号・五無齋（ごむさい））について造詣の深い講師をお招きした講演会です。明治期を駆け抜けた唯一無二の奇才と称される保科百助について、その人物像やエピソード、後世に残したその功績などをお話しいたします。企画展では保科の集めた岩石標本なども展示されていますので合わせてご覧ください。



保科百助蒐集長野県地学標本

《期 日》 令和2年9月20日（日）

午後1時30分～午後3時

《場 所》 市立大町山岳博物館 講堂

《講 師》 村田長年さん（五無齋保科百助研究会）

《募集人員》 50名（定員になり次第締切）

《参加費》 無料（会員以外の方の企画展のご見学には通常の観覧料が必要です）

《申し込み》 当日までに電話・FAX・Eメールまたは直接、山岳博物館へ。

参加希望者の氏名、住所、電話番号をご連絡ください。

電話：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133

Eメール：sanpaku@city.omachi.nagano.jp

※マスク着用でご参加ください。発熱などの体調判断をお願いします。

※企画展の「ミュージアム・ガイド」は、この後は9月26日（土）（1回目…午前10時30分～ 2回目…午後2時30分～、各回20分程度）に行われます。この企画展は9月27日までです。

市立大町山岳博物館主催 友の会協力

## 「バックヤード見学会

何があるのかな？ 博物館収蔵庫・図書資料館を見て回ろう！」

山岳博物館には展示品ばかりではなく多くの資料が収集保管されています。博物館の魅力はその収蔵力にあるといっても良いかもしれません。今回は、学芸員らによってそれぞれの担当する貴重な収蔵品を特別にご案内していただきます。また、友の会会員による植物標本の整理の様子も見ていただきます。博物館のディープな部分を楽しみましょう。

- 《期 日》 令和2年9月22日（火・祝） 午前10時～正午  
《場 所》 市立大町山岳博物館 収蔵庫・標本庫・山岳図書資料館  
《募集人員》 小学生～大人 20名（定員になり次第締切）  
《参加費》 無料  
《申し込み》 9月1日（火）から前日（9月21日（月、祝））までに  
電話・FAX・Eメールまたは直接、山岳博物館へ。  
参加希望者の氏名、住所、電話番号をご連絡ください。  
電話：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133  
Eメール：sanpaku@city.omachi.nagano.jp

※マスク着用でご参加ください。発熱などの体調判断をお願いします。



### お知らせ

◎ゆきつばき通信182号（2020年2月）でご案内し、延期となっていた矢野孝雄先生による総会記念講演会「信濃大町「岳野湖山」にかける夢」（博物館と共催）は、来春、館の創立70周年とあわせて実施できるよう調整しています。ご理解の程よろしくお願いたします。

◎企画展「雪が織りなす物語」が令和2年10月3日（土）～令和3年1月17日（日）に実施されます。この中で、10月4日、12月20日、1月17日にはミュージアムガイドが、11月15日にはさんぱくゼミナール（友の会協力）が予定されています。9月発行の広報誌「山と博物館」で詳しくご案内します。

**報 告** [友の会主催事業]**「防災キャンプ in 山の子村」**

《期 日》 7月11日（土）午後2時 ～ 12日（日）正午

《場 所》 山の子村（大町市）

《参加者》 8名

ワークショップ的な、サイエンスカフェ的な進行にしてみました。発言、対話も多く実りある講座になったと思います。コロナ禍とはいえ参加者が常連のみであり、企画内容やPRに問題があったかもしれません。

## [感想文]

**防災キャンプに参加しました**

川崎 祐子

近年「50年に一度」とか「今まで経験したことのない」という形容詞がつくような自然災害が増えてきています。いつ自分が避難することになるかもしれず、「防災キャンプ」に興味があり、今回参加させていただきました。

担当の丸山さんに教えていただいて実際に雨量計を使って雨の量を測ったり、見たことのなかった乾湿温度計をつかって気温と湿度を測ったり、水たまりの水をろ過材を使ってきれいにしたりしました。



天気は防災キャンプにふさわしく、途中かなり雨が降ってきましたが、雨量計の水をはかるとさほど溜まっておらず、ニュースで聞く1時間に30mmとか50mmというのがどれだけすごい雨なんだろうと実感しました。雨量計がなくてもお酒のワンカップで雨量が測れることも教えていただきました。1時間に15mm溜まるような雨が続いたら避難したほうがいいそうです。

夜ごはんはキャンプらしくカレーをみんなで作りました。ただご飯はハイゼックスというビニール袋に直接お米とお水をいれて鍋で茹でて作りました。これも初めての経験でした。

サバイバルキャンプにふさわしく参加された方がなんと28年前のコンビーフの缶詰を持ってこられました。みんなで勇気をもって缶詰を開けてみましたがまったくなんでもなく、とても美味しそうでしたので、みんなでいただきました。本当においしかったです。

朝ごはんはホットドックをアルミ箔に包んで牛乳パックに入れて牛乳パックに火

をつけて焼きました。あとパン生地を竹に巻き付けて直接火にかけて焼きました。それと山で取ってきたホウバを使って木曾で有名なホウバ巻きを作る経験もさせていただきました。どれも初めての経験でしたが素朴な味わいでとても美味しかったです。



食後は担当の宮澤さんから大町の地形地質や防災のお話をしていただき、実際に少し歩いて地層を見に行きました。

実際に災害にあって避難するときにはこんなに楽しく過ごすことはできないと思いますが、何度かこういう経験を積んで慣れていきたいと思いました。ありがとうございました！

## 雨の山の子村・防災キャンプ

丸山 優子

九州豪雨に続き長野県内も大雨特別警報が頻回に流れたこの週に、タイムリーに行われた行事だった。

テントを張ったり、炊事場で夕食の準備をした後、小屋に荷物を運び入れた。宮沢さんがかわいいマットを十数枚持ってきてくれたので、小屋のござの上に敷き詰めた。

講義とフィールドワークは 8 名という少人数だったので屋根を張った屋外で円形に椅子を並べサイエンスカフェ風に行った。

気象観測では丸山氏自作の雨量計が使われ、時間を追って雨量を観測した。今はめったに見かけることのない乾湿温度計による湿度の求め方も教わった。風速の目安も学び、7月11日16時は天気雨、気温 22 度、湿度 91%、降水量 10 mm、風速微風、風向西、ということになった。気象一つにしても学ぶことはたくさんあるなあと思った。

また、ハザードマップは各自住んでいるところのものが配られ、それぞれの災害時避難の注意点をみんなで確認しあった。避難場所は地震の時と洪水の時では違う場所であることを改めて確認した。

大町市の気象については災害のあった時のことから、ダムの設置や放流のことについて細かく聞いたが、今一度勉強してみようと思った。

さて、夕食だが、カレーはみ



んなで持ち寄った野菜を使い大鍋で作った。ご飯はハイゼックスという炊飯袋に、洗ったコメを入れ、30分茹で上げた。ここで今回のメインの古き良き缶詰の登場だが、なんと二十数年前のコンビーフ、十年前のクジラの缶詰が登場、場を沸かせた。高級コンビーフの味はさすが缶詰、全くその年月を感じさせない味だったが、念のため玉ねぎと一緒に火を通してありがたくいただいた。クジラも懐かしく、皆、一切れずつ賞味した。数日たったがまだおなかには壊していない。本当に貴重な経験だった。缶詰やレトルトはかなりもつものと証明した。カレーと少し硬めのご飯もとてもおいしかった。

翌日朝は強力粉とベーキングパウダーで作ったパン生地を竹の細棒にねじって巻いて焚火の火にかざして焼いて食べた。もう一品は牛乳パックの中にアルミ箔でくるんだホットドッグを入れ、まわりの牛乳パックを燃やして温めて食べた。両方とも大成功。

午前中の授業は宮沢さんの“北アルプス 2 回目の大隆起”というお題での話。東山の平坦面は、急激（地質的時間での）な隆起でできた乗越面と中島面、河岸段丘の大町公園面と館之内面があるとのこと。山の子村は中島面で巨石が多い。それを山砂利というが、水で運ばれたので丸いのが特徴。河原のあとだったらしい。実際山砂利を見に行き、そのあと露頭まで歩いた。川であった痕跡を見させてもらって納得した。

今回いろいろ面白い話が聞けて本当に勉強になった。大勢のみなさんにも来てほしかったなと思った。



**報 告** [友の会協力事業]

(企画展関連事業)

**フィールドワーク白馬大池登山ー博物学ゆかりの現地探訪ー (中止・座学)**

《期 日》 7月28日(火)

《場 所》 山岳博物館

《参加者》 15名

**フィールドに出られなかった白馬大池登山 (座学報告)**

丸山 優子

15名の募集で始まった今回のフィールドワークは、コロナの影響でほとんどの行事が中止になる中、みんなの期待は高まっていたと思います。まさかの大雨による中止でまたがっかりはしましたが、本当に今年は仕方がないというしかないですね。

座学は、我々を案内してくださるはずだった先生方が一生懸命勉強されている専門のお話をしていただけるとのこと、参加者は講堂に集まりました。

安全登山のアドバイスは山岳総合センターの赤梅副所長、地質は太田専門員、植物は千葉学芸員、動物は栗林学芸員、歴史・民俗は関学芸員がお話してくださいました。

**登山のアドバイス****赤梅センター副所長**

資料も用意していただき、私としてはとても参考になるお話でした。近頃は山岳遭難が増えているということからお話は始まりました。

<1. 安全登山の考え方>では自分の力量に合った山を選べとのことでした。頭ではわかっているけれども実は今のうちに少しでも難しい山に挑戦しておきたいと思っていたのに、だめなんです。というか、それなりに準備と心構えとトレーニングが必要と改めて教わりました。

<2. 疲れない歩き方とトレーニング>では朝、

エネルギーをしっかりとる、適当な間隔で休息する、水分、エネルギーをこまめに摂る。喉が渇く前に、だそうです。トレーニングは山に登るのが一番よいそうで低い山に何度も登る、少しきつめに筋肉のバランスを考えて、とのことでした。

<3. 山で起きやすい病気>では日射病、熱痙攣、低体温症、高度障害についても教えていただきました。いただいた資料はその症状まで細かく分類されているので大切にしたいと思いました。いままで知らずによく登っていたなと思う所もありました。

## 白馬大池付近の地質について

### 太田専門員

白馬大池火山は、3～4km の深さにマグマがある乗鞍火山列にある第四期火山の一部です。白馬大池火山の基盤は飛騨外縁帯という日本列島が大陸の一部だった時の古い地質から構成されています。火山の噴火は80～50万年前の古い火山と17～7万年前の新しい火山に分けられます。白馬大池は乗鞍岳溶岩により当時の川がせき止められてできた湖だそうです。

天狗原には溶岩が流れた跡があり、粘性の高い安山岩質マグマで、ごつごつしたまま固まっているのが見られるそうです。白馬大池の湖底堆積物には過去20万年間の地球環境の変遷の情報が記録されていると期待されるのでこれから研究されるそうです。面白そうですね。

## 高山植物の生活史について

### 千葉学芸員

来年の企画展に合わせ白馬に登ってきたとのこと。高山植物は500種ほどあるそうで、日本の高山植物はいったいどこから来たのかという興味深い話をしてくださいました。超多雪となる北アルプスの地形や気候により、世界では珍しい低緯度、低標高で高山植物が生育する環境となっているとのこと。第四紀更新世の氷河期に海面が低下して何回かできた陸橋を伝わって入ってきたそうです。その証拠が高山植物のDNAなどに残されているそうです。

次に高山植物の中でも花と昆虫の不思議な関係ということでコマクサについてお話してくださいました。花の構造（おしべはハート形、めしべにはオニのような角がついていると、何気なく言っていました）や、マルハナバチによる受粉の役割、盗蜜、そして開花の順番（下から咲く）など。他にもヒメイワショウブ、クロユリ、ヒメクワガタなど最近の調査で発見されたことを教えてくださいました。高山植物の本にも書かれていないことだそうです。

千葉さんの研究は来年の企画展で発表される

そうです。楽しみです。

## ライチョウについて

### 栗林学芸員

ニホンライチョウは世界の中では最南端に生息する亜種で、飛翔は苦手と思われがちだが山から山へ20kmぐらい飛ぶそうです。分布も主には長野県の高山帯、亜高山帯です。換羽は日照時間の変化に合わせて変わるようで、山博の飼育環境も乗鞍岳の日照時間に合わせています。これは繁殖にも重要な要素ということです。またライチョウはハイマツ帯がないと生息できないそうです。明治期にも河野齡蔵氏が羽数を数えています。羽田健三先生の調査で昭和54年に具体的に示されました。縄張り数×2.5羽がライチョウの数だそうです。南アルプスでは半分に減ったが、白馬乗鞍、白馬大池辺りでは減少はないとのこと。乗鞍岳では増えているそうです。

栗林さんが山博でのペアリングの際、雌の鳴き声を聞いたそうです。はじめクウクウ→クワクワと鳴いていたのが、最後はコケッコウと鳴いたそうです。

最後に、現在の飼育の報告、中央アルプスへの移殖についてのお話を伺いました。

## 白馬大池山荘の歴史について

### 関学芸員

標高2300mの白馬大池湖畔に建つ白馬大池山荘は1916年（大正5年）に建てられました。最初は蓮華温泉方面からの登山路整備にあわせ、8畳ほどの避難小屋でした。1933年、この小屋の権利を取得したのは白馬山荘などを経営するヤマキ旅館でその礎を築いたのはヤマキ旅館の松沢貞逸でした。昭和2年ごろには白馬大池にボートを浮かべ、それで小屋まで湖面を行き来していたという写真を見せてもらいました。湖の中に鳥居もあったそうです。雪形伝承では“しろうまだけ”の由来についてのお話をお聞きしました。白馬か代馬かというお

話ですが“代馬岳”と表記された絵図や古地図はないそうです。あと、小蓮華山に出現するコウマの雪形こそがかって代かきの適期の目安

にされた雪形ではないかという説があるそうです。

### この夏の山博のこども企画

企画展に関連して、また、さんぱくこども夏期だいがくとして、エネルギー博物館の上原学芸員を講師にワークショップ「一壇百験(いちびんひゃっけん) 一山のミニ科学実験教室」が8月1日に行われました。真空ポンプ



で気圧を下げると……。こども達の目が引きつけられました(写真上)。

また、小学生対象の特別プログラム「今年の夏休みは山博であそぼう！」が学芸員らによって開催されました。友の会でもお手伝いして、休みの日の常設になればと思いました。(写真左)

## 烏帽子の会

### 活動報告 広津の里を訪ねて

《月日》8月2日(日)

《天気》晴れ

《参加者》17名

#### 《コース状況：その他周辺情報》

シラネアオイや桜の時期に予定しましたが、コロナ禍でこの時期となりました。旧広津村は昭和32年に池田町に合併しました。今では過疎化が進みましたが、かつては養蚕やたばこ栽培なども盛んで、遺跡や神社仏閣も多くあります。

#### 《感想》

コロナの自粛が続き久しぶりの烏帽子の会でした。

広津という名前だけでは知っていても池田町の東の山中と言う程度の知識しか有りませんでした。しかし今回担当の有川さん、中山さんの詳しい説明や各種資料を準備していただいて、かつては四千人もの人々が養蚕やタバコの葉の栽培などで豊かに暮らしていた歴史のある山里だと知りました。また神仏を大切に守って暮らしてきた人々の思いが今も石造百体仏像、阿弥陀堂、観音堂などとして保存されておりとても





興味深いものでした。高照山の三千本の山桜や四千五百本ものシラネアオイの話は花の盛りに訪れてみようと思わされました。雛沢さんの庭をお借りして有川先生に配達していただいたお弁当や中山さんのコーヒーをいただきながらの総会

も楽しく思い出に残るものでした。コロナの影響はまだまだ続くでしょうが、やはり仲間と歩く山行は楽しいですね。歴史や地形に詳しい方、草花に詳しい方と話題は尽きません。

今回担当していただいた皆様、楽しく有意義な一日をありがとうございました。



若林みどり



#### 《コースタイム》

池田町役場 8:30 → “かえで\*” (トイレ) → 9:33 石造百体観音 → 10:07 北足沼阿弥陀堂 → 10:50 六地藏 → 11:05 サクラの記念碑 ~ 高照山 ~ 11:38 善光寺地震の傷跡の看板 → 12:04 ポツンと一軒家 (雛沢さん宅 昼食) 13:13 → 13:32 なまくら観音 → 14:10 菅ノ田の姫杉・厄除け観音堂 → 14:28 平畑駐車場 → 15:30 “かえで\*” 解散 \*池田町交流センター

#### 総会報告

8月2日の山行の昼食時に烏帽子の会の総会を行いました。今年度の山行予定をお知らせしますが、担当都合、コロナウィルス状況によって変更になる可能性もありま

す。

月	場所	担当
9月	大渚山	宮田・吉田・太田
10月	大姥山	仙波・福島・川崎
11月	糸魚川八十八か所めぐり	澤渡・若林・太田
1月	どこか	宮澤
3月	小谷周辺スノーシュー	澤渡・川崎
5月	高照山・桜の里（総会）	有川・中山・丸山

次回山行は9月13日（日）に小谷村、大渚山 湯峠 コースを予定しています。

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

## ボランティアサークル

8月お盆の時期は、館内ガイド、ライチョウ舎案内を中心にボランティア活動を行いました。また、「さんぱくこども夏期大学」や「今年の夏休みは山博であそぼう！」の補助（お邪魔やサクラ？）も研修兼ねがね行いました。

駐車場は例年の半分程度でしょうか？それでも、滞在時間がとても長いように感じました。ボランティアも、ゆっくりしていただくお客様に寄り添うように（物理的距離と時間には注意して）お付き合いしました。

大町市内小学校に各自新聞を作るという宿題が出たようです。博物館にも何人かマメ記者がテーマをもって取材に訪れていました。まずは、博物館、将来が楽しみです。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

ゆきつばき通信編集室より

長雨、大雨の梅雨から一転して暑い夏となっています。いかがお過ごしでしょうか？今号は、夏の行事等の報告と秋前半のご案内になります。

with コロナ、催し物にもいろいろ制約が付きませんが、この禍は長引きそうなので、うまくかわしていくしかないのかもしれないかもしれません。博物館も、手指の消毒の徹底、マスクの着用で息苦しい感じもしますが、雄大なアルプスを眺めて、来館者の一時の憩いの場ともなっているようです。

お疲れの日々、地域によっては移動が難しくなっていますが、心だけでも山博に、アルプスに繋がってください。  
(丸山卓哉)

## ゆきつばき通信 第184号

発行／大町山岳博物館友の会 2020年8月23日

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334